鳥取2区は新人・川上氏

大激戦を制す

相沢氏、10選ならず

第四十三回衆院選は九日、投開票が行われた。即日開票の結果、小選挙区は鳥取1区が自民前職で防衛庁長官の石破茂氏（四六）が十一万四千二百八十三票を獲得し、社民新人の田中清一氏（五〇）と共産新人の水津岩男氏（五三）を大きく引き離して圧勝し、六回目の当選を果たした。鳥取2区は、無所属新人の川上義博氏（五三）が五万二千四百六十六票を集め、追いすがる民主前職（比例代表中国ブロック）の山内功氏（四九）と自民前職の相沢英之氏（八四）をかわして初当選を果たした。九回連続当選の自民ベテラン相沢氏は、十選を果たせなかった。自民は2区の議席を失ったものの、川上氏は選挙中から自民党に復党する意向を表明している。投票率は鳥取1区が64・23％、鳥取2区70・00％で、前回衆院選を9・84ポイント、2・92ポイント下回った。

初当選を果たし、万歳する川上義博氏（右から2番目）と妻・和子さん＝9日午後11時、米子市明治町の選挙事務所

鳥取・選挙区開票結果（選管最終）

1区

当	114,283票	石破　茂	46	自前
	31,236票	田中　清一	50	社新
	14,092票	水津　岩男	53	共新

2区

当	52,466票	川上　義博	53	無新
	50,989票	山内　功	49	民前
	45,900票	相沢　英之	84	自前
	9,266票	大谷　輝子	67	共新

小選挙区当選者

石破　茂（自民、前）

防衛庁長官。銀行員などを経て86年、衆院初当選。農林水産政務次官、衆院規制緩和特別委員長、衆院運輸委員長、農林水産総括政務次官、防衛総括政務次官、防衛庁副長官などを歴任。02年9月から現職。慶応大法学部卒。鳥取市上町。当選6回。46歳。

川上　義博（無、新）

元鳥取県議。前自民党県連政調会長。衆議院議員秘書を経て、95年に鳥取県議に初当選し、2期連続当選。県議会総務教育常任委員会委員長、同企画土木常任委員会委員長などを歴任。青山学院大経営学部卒。東伯町徳万。当選1回。53歳。

6選を果たし、選対幹部から万歳で祝福される石破茂氏（中央）＝9日午後8時45分ごろ、鳥取市戎町の選挙事務所

組織固め石破氏6選

1区

前回上回る11万票台

鳥取1区は、石破氏が二十一市町村のすべてで他の二候補を大きく引き離して圧勝。投票率が低かったにもかかわらず、前回（九万一千百六十三票）を大きく上回る十一万票台の大量得票となった。

石破氏は、有力新人の出馬で危機感があった前回から一転し、安泰ムードの漂う選挙戦。現職の防衛庁長官のため、閣議や他候補の応援で、ほとんど不在の選挙を余儀なくされたが、後援会を軸に党支部と連携して組織戦を展開した。

陣営では初の不在選挙と気の緩みを最も警戒して引き締めを徹底。「大臣にふさわしい得票」を合言葉に、懸念していた低投票率を少しでも底上げしようと、多忙な合間を縫って決起集会を開くなど比例とセットで選挙の盛り上げに全力を挙げ、支持層を手堅くまとめた。

田中氏は、候補者擁立を断念した民主とバーターして選挙協力。石破氏に対決姿勢を示し、自衛隊のイラク派遣を強く批判、護憲と政権交代を訴えて挑んだ。

しかし、党勢の衰退傾向には歯止めがかけられず、元岩美町議という政治経験もあったが、地元の岩美郡以外での知名度の低さをばん回できなかった。

水津氏は、自民・民主の対決ムードに危機感を抱き、比例とセットで消費税、憲法問題などを中心に共産党の存在意義を訴えたが、浸透し切れなかった。

解説

大臣の強み発揮

全域手堅く得票

石破氏

自民前職で防衛庁長官の石破氏が1区全域で満遍なく集票して圧倒的な勝利を得、共産、社民の新人二人は、自衛隊のイラク派遣問題を掲げて石破氏との対決姿勢を鮮明にしたが、大きな争点にはならず、批判票を獲得し切れなかった。

石破氏は当選五回の実績に加えて、昨年九月には防衛庁長官に就任。当初から優位が伝えられ、陣営の関心は当落よりも、現職大臣にふさわしい票の獲得だった。

そのためには予想された低投票率をいかに引き上げるかが最大の課題で、比例中国ブロックで前職の平林鴻三氏＝党県連会長＝が名簿登載順位二十一位となり、さらに懸念が深まった。

しかし、中盤以降、党組織がこの比例順位への怒りをばねに結束。選挙区と比例をセットにした戦いを展開して圧勝につなげた。

民主党はまたも候補を擁立できず社民との選挙協力にとどまった。「政権選択」の選挙でありながら、有権者の選択肢が狭められ、政権を目指す野党第一党として、その責任は極めて重い。

（鳥取総局・平井誠司）

大谷氏、比例とのセットで消費税、憲法問題強調

川上氏

〝反相沢票〟取り込む

解説

川上氏は、2区にうっせきしていた〝反相沢票〟を取り込んだ。特に女性、青壮年層をターゲットに「世代交代」を訴え、勝利につなげた。

保守分裂の選挙戦となったこと自体が、相沢氏に対する高齢、多選批判を象徴している。川上氏は自民党を離党したが、選挙期間中から当選後の復党を示唆し、自民党支持者を取り込むことに成功した。また、森田隆朝元米子市長が後援会長に就任し、米子市内で支持を広げることができた。

政策の訴えだけでなく選挙前から、集会などでは大衆性をアピールした戦術で、ムードを盛り上げるうまさも目立った。

今後は川上氏の復党が焦点になる。自民党県連は昨秋の参院補選でも分裂選挙を戦っており、しこりは残ったまま。公認候補が敗れたことで新たなしこりが生まれたことは否めず、県連の対応が注目される。

山内氏はマニフェストを前面に掲げて健闘したが、前回獲得した反相沢票が川上氏に流れ、わずかに及ばなかった。

相沢氏は後援組織の高齢化と自民党県議がまとまらず、支援態勢が固まらなかったことが最後まで響いた。公明党の公認なく得票し、まれに見る大接戦を抜け出した。

川上氏は自民党の公認を得られなかったため、無所属で出馬。手づくり的な選挙運動にもかかわらず、公示前から集会などでは抜群の動員力を誇り、他陣営との勢いの差を見せつけた。

「世代交代」「中央と地方の権限構造の改革」の二本柱を中心に訴え、女性や若者の支持も集めた。公明党から公式な推薦は受けられなかったが比例とのバーターで、公明支持層に食い込んだ。

山内氏はマニフェスト（政権公約）を掲げ、選挙戦は連合鳥取が集票マシンとなってフル稼働。市部を中心に追い上げたが及ばず、目標としていた小選挙区での当選は果たせなかった。

十選を目指した相沢氏は、かつてない厳しい選挙戦。「金融、税財政のベテラン」「中央と地方とのパイプ役」を訴えたが、公認問題で後援会組織の態勢づくりが遅れたのが響いた。また、選挙期間中も多選、高齢批判という超逆風にさらされ、最後までばん回できなかった。

比例代表 中国ブロック当確状況

（定数11人、10日0時51分現在）

【自民党】（26―4）4
1109633　37・55％

当1	亀井　久興				前元
当2	河井　克行				新元
当3	加藤　勝信				新元
当4	能勢　和子				新元
5	佐藤　信二	山口	2	△	元83
5	桧田　仁	広島	2	△	元59
21	平林　鴻三				前
22	松尾　洋治				新
23	鈴木　匡信				新
24	長尾　広志				新
25	合田　正				新
26	宇田川　隆久				新
○5	石破　茂	鳥取	1		前
○5	細田　博之	島根	1		前
○5	竹下　亘	島根	2		前
○5	逢沢　一郎	岡山	1		前
○5	熊代　昭彦	岡山	2		前
○5	平沼　赳夫	岡山	3		前
○5	村田　吉隆	山口	5		前
○5	岸田　文雄	広島	1		前
○5	増原　義剛	広島	3		前
○5	中川　秀直	広島	4		前
○5	池田　行彦	広島	5		前
○5	宮沢　洋一	広島	7		前
○5	高村　正彦	山口	1		前
○5	河村　建夫	山口	3		前

【民主党】（17―4）4
981791　33・23％

当1	山内　功	鳥取	2		前97
当1	津村　啓介	岡山	2		新87
当1	佐藤　公治	広島	6		前85
当1	和田　隆志	広島	7		新80
1	秦　知子	岡山	5		新67
1	柿沼　正明	広島	1		新66
1	佐々木修一	広島	5		新65
1	柚木　道義	岡山	4	△	新61
1	空本　誠喜	広島	4	△	新57
1	菅　源太郎	岡山	1	△	新57
1	浜口　和久	島根	1		新51
1	大泉　博子	山口	1	△	新48
1	岩本　晋	山口	3	△	新45
1	中村　徹夫	岡山	3		新38
1	石田　良三	島根	2		新35
○1	松本　大輔	広島	2		新
○1	平岡　秀夫	山口	2		前

【公明党】（4―2）2
524999　17・77％

当1	斉藤　鉄夫				前
当2	桝屋　敬悟				前
3	笹井　茂智				新
4	森下　定幸				新

【共産党】（3―0）0
190353　6・44％

1	中林　佳子				前
2	久米　慶典				新
3	藤本　聡志				新

【社民党】（5―0）0
148048　5・01％

1	金子　哲夫	広島	3	△	前50
1	田中　清一	鳥取	1		新27
1	小島潤一郎	山口	4		新15
1	出島千鶴子	島根	2		新14
1	松井　秀明	広島	4	△	新11

【注】ブロック名の下の数字は定数。党派名の右のカッコ内はその立候補者数と当選者数、右には獲得議席数（定中のみ）。次行は前回00年、前々回96年の当選者数（選終のみ）。その次行に政党ごとの得票数、得票率。立候補者の行で「当」は当選、登載順位、氏名（敬称略）、重複者はその都道府県名、選挙区名、小選挙区で開票中は△、前元新、惜敗率（当確者の得票数が「0」で、同じ小選挙区の重複者に得票数があった場合などは※）「00」はその小選挙区が未開票。小選挙区での当選者は、末尾に届け出順に並べ、「当」の代わりに「○」。党派の並べ方は解散時の衆院勢力順。

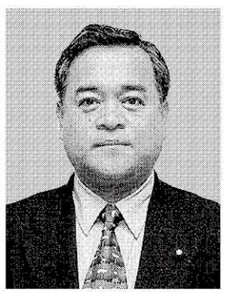
山内、亀井氏が当選

比例中国

比例代表中国ブロック（定数一一）の山陰関係は十日午前零時十分現在、自民の名簿一位の亀井久興氏（六四）＝前職＝が当選。鳥取2区で落選し、重複立候補した民主の山内功氏（四九）＝同＝も惜敗率97・18％で復活した。

自民の名簿二十一位の平林鴻三氏（七三）＝同＝の中林佳子氏（五七）＝同＝の当落は同日未明の開票終了直前に判明しそう。六選は絶望的。共産一位の中林佳子氏（五七）＝同＝の当落は同日未明の開票終了直前に判明しそう。六選は絶望的。共産一位だ。

比例代表中国ブロック当選者



山内　功（民主、前）

党県連副代表。熊本地裁判事を務めた後、83年、米子市で弁護士開業。2000年に比例中国ブロックで初当選。党鳥取2区総支部代表。中央大法学部卒。米子市両三柳。当選2回（比2回）。49歳。

亀井　久興（自民、前）

党総務。1974年から参院2期。90年衆院に初当選。国土庁長官、党総務副会長、政調会長代理など歴任。学習院大政経学部卒。島根県津和野町出身。益田市有明町。当選4回（比1回）。64歳。

島根

1区　細田氏

2区　竹下氏

島根県は二つの小選挙区とも開票直後の午後八時すぎに当落が判明、自民が二議席を独占した。

1区は細田博之氏（自民前）が浜口和久氏（民主新）、上代善雄氏（共産新）を振り切り、五期連続当選を決めた。

2区は竹下亘氏（自民前）が石田良三氏（民主新）、向瀬慎一氏（共産新）、出島千鶴子氏（社民新）に大差をつけて再選を果たした。

県内では小選挙区が三から二に削減された最初の選挙となったが、自民は保守王国の地盤に支えられ安定した力を見せつけた。民主は政権選択の風を起こせず、共産、社民は二大政党の間で苦戦を強いられ、議席獲得に至らなかった。

投票率は70・66％で、前回より6・52ポイントも下回った。

島根・選挙区開票結果（選管最終）

1区

当	117,897票	細田　博之	59	自前
	61,071票	浜口　和久	35	民新
	14,237票	上代　善雄	49	共新

2区

当	145,555票	竹下　亘	57	自前
	50,951票	石田　良三	71	民新
	20,965票	出島千鶴子	59	社新
	10,774票	向瀬　慎一	32	共新

（米子総局・安井徹仁）